



「礼拝」も「聖書」も高校に入って初めて触れた大切な時間です。

— [キリスト教教育] — ing

page 09-10

世界で起きていることの根幹を理解するための不可欠な学び

73期生 (2024年度卒業生) H.A.

中学生まで未知の世界だったキリスト教は、意外にも私たちの身近にありました。

宗教の授業で学んだ聖書は、現代の映画や演劇などのベースになっていることが多く、世界の人々の価値観や考え方を知ることができます。宗教の歴史は世界史そのものであり、現在、世界で起きている紛争や戦争の理由も理解することができました。毎日の礼拝では、牧師の先生や様々な方が聖書をベースに、世の中で起きている事象について語られました。ときに先生ご自身のことが語られることもあり、先生にも悩みがあるのだと親しみを感じました。

3年間所属したハンドベル部では、他者と協力しあってハーモニーを奏でる大切さを学びました。ロシアによるウクライナ侵攻が始まった頃、同時多発テロのときに黒人教会で演奏された曲をハンドベル部で演奏したことがあります。曲の成り立ちを学びながら、戦争は遠い国で起きているのではなく、今、私たちが生きている世界の現実なのだ実感しました。

選択授業で受けた「現代史特講」では、複雑な中東情勢についてもじっくり学ぶことができました。キリスト教教育から学んだのは、宗教とは必ずしも単なる精神的な問題ではないということ。世界で起きていることの根幹を理解するために、不可欠な学びを得ることができました。

途上国の子どもたちは可哀想という概念が覆された平和・共生プログラム

74期生 (2025年度卒業生) M.A.

東ティモールスタディツアーに参加する前、私のイメージは「発展途上国の貧困地域に暮らす子どもたちは可哀想」というものでした。現地はWi-Fi環境も整っていない、家業のコーヒー農園を手伝う子どもたちの中には学校に通えない子どももいます。それでも、子どもたちは明るく、言葉も通じない私の手を引いてくれました。フィリピン訪問プログラムで出会った子どもたちも日本とは教育格差がありながらも喜んで学校に通い、友達と勉強を教え合うのが楽しそうでした。東ティモールもフィリピンも、経済的には貧しくても笑顔の子どもたちがいて、「可哀想」とはまったく違いました。貧困地域への渡航は「勉強のため」ではなく、いつしか彼らの笑顔に会いに行く旅となり、彼らが心豊かなまま、前向きに生きられるにはどうしたらいいかを考えるようになりました。そこで子どもたちに希望を与えられるような絵本を、高等部の生徒たちに翻訳してもらって現地に届ける「絵本プロジェクト」を立ち上げました。もしも世界の貧困など知らない高校生活を送っていたら、やりたいことを見出すこともできず、お金を稼ぐための就職を考えていたでしょう。世界の児童労働の現状を知った今、まだまだ途上国の子どもたちと関わりを持っていくと決意を新たにしています。

— [平和・共生] — ing

page 09-10

STORYing

3年後のその先へとつながるものがたり

青山学院高等部には授業の枠を超えた多彩な活動があります。クラブ活動、生徒会、国際交流、そして社会との関わり——。生徒の数だけある活動の軌跡は、一人ひとりの人生の糧となり、多様な将来につながっています。

ニュースでしか知らなかった世界が留学先ではすぐ隣にありました

74期生 (2025年度卒業生) O.K.

高校一年で参加したカナダへの1年間留学は、視野を広げ、自分が海外で生活できるのかを試すための挑戦でした。カナダには留学生やインターンをはじめ、全く違う国にルーツを持つ人、難民や移民として移り住んできた人など多様なバックグラウンドを持った人たちがおり、それぞれの文化や価値観を持ちながらお互いを尊重し合っています。いろいろ違いはあるけれど、同じカナダの住民という意味で、「どここの出身?」と尋ねると「カナディアンだよ」という答えが返ってきます。

現地の高校では、1クラスが少数人数なので授業は受け身ではられません。あるいは授業とは関係のないことをしようとも自分の責任という意識でした。学ぶ・学ばないは自分の自由という感覚は、責任のある自由が保障されている高等部の雰囲気と似ていると感じました。

留学中、5ヶ国語を話せる留学生と出会いました。それは恵まれた環境の中で勉強したのではなく、難民として世界を渡り歩いてきたからこそその言語力でした。留学先にはニュースで見える世界が身近にありました。日本国内で学んでいるときと留学後では、難民に対する認識や意識も変わってきました。将来はUNHCRで難民支援に携わりたいと思っています。



海外でたくさんの刺激を受けました。

— [国際交流] — ing

page 07-08

選択授業と部活動でキャンパスライフを体験

73期生 (2024年度卒業生) S.K.

高大連携の授業選択で僕が決めていたのは、ほぼ毎日練習があるブラスバンド部と両立できること。そこで練習前の空き時間を使うなど、自分のペースで受講できるオンデマンドの授業を選択しました。

僕は歴史に興味があり、「歴史と人間」の講義を受講しました。これは世界の地域ごとに言語と人間の関わりを探究し、言語が歴史にどのような影響を与えたかを学ぶ講義で、植民地支配された土地に外国語が根付く過程を学んだ講義はとても興味深かったです。

青山学院大学では国際経済学部に進学しましたが、高等部時代に同学部の講義を受講すれば2単位取得できます。進学する学部が確定していなかった僕は、どの学部に進学しても2単位が認められる「青山スタンダード」というカテゴリーの中から授業を選択しました。

部活動でも高大連携をする機会がありました。3年生のときには青学校友会の150周年記念コンサートがあり、大学生ブラスバンドと一緒に舞台上で演奏させていただきました。このような活動を通して、大学の先輩から学部の情報やキャンパスライフなど、さまざまな情報を得ることができました。高校生のうちに将来を具体的に思い描き、計画的に学ぶことができたのは、大学のキャンパスが隣接している高等部ならではの環境です。

— [高大連携] — ing

page 11-12





Christianity-based
Education

キリスト教教育



WEB「キリスト教教育」ページ

真実を求める心を培い、 神や人生について深く考える力を育てる。

キリスト教教育は、米国メソジスト教会の宣教師によって建てられた青山学院の教育の根幹をなすものです。
生徒たちがキリストの愛に触れ、自己の生き方を見つめ、隣人を愛し社会に貢献できる人として巣立ってくれることを願っています。

人生の道標、心の支えになる聖書のことば

宗教主任 山元克之

「隣人を自分のように愛しなさい」という聖書の御言葉があります。自分を愛し隣人を愛するとはどういうことか、学校生活の中には常にその問いが溢れています。本校ではキリスト教の信仰を押し付けることはありません。しかし長い人生で壁にぶつかったとき、何かを選択しなければならないときに、心の引き出しから取り出して、支えや道標になるはず。



神の愛を感じる毎日の礼拝

全校生徒と教職員がともに講堂に集い、聖書の御言葉(みことば)を通して自らを振り返る毎日の礼拝は、この学校が最も大切にしている時間です。
週一回、各クラスで行われるホームルーム礼拝では、生徒が司会、奨励(話)、奏楽等を担当し、クラスメイトの言葉に耳を傾けます。

週に一回の「聖書」の授業

青山学院の教育の土台は聖書の御言葉です。そして、この御言葉を学ぶ時間が「聖書」の授業です。授業では、聖書を手に取り、自分自身について、また隣人について考え、神と私たちとの生きた関係について学びます。また、さまざまな切り口から聖書を紐解くと、自分自身の生き方を考えるだけでなく、キリスト教を信仰する世界の人々の価値観を理解することができます。

キリスト教に触れる様々な行事

夏休みのグリーンキャンプ、冬休みのホワイトキャンプは、大自然の中で仲間との親睦を深め、聖書を学び、神様や人生について考える機会です。また、クリスマスやイースター、特別礼拝などを通して、キリスト教の伝える真理に深く触れていきます。



ホワイトキャンプの様子



聖歌隊

キリスト教教育活動に関わるクラブ

オルガン部、聖歌隊、ハンドベル部は礼拝での奉仕をする特設クラブです。聖歌隊は外部の合唱コンクールでも活躍し、オルガン部から音楽大学に進学する生徒もいます。ABF(聖書交友会)は聖書が語りかけるメッセージに耳を傾けるクラブ活動です。



国際交流



WEB「国際交流」ページ

国や文化の違いを超えて、他者を理解し支援することのできるサーバントリーダーを育てる。

本校の国際交流が目指すものは、「価値観の多様性 (diversity) の共有」です。これは、世界中の人々が「愛と平和」のうちに互いを認め合い、共に生きるというイエス・キリストの教えに根差したものです。本校はその思想を実践し、国内外の社会に貢献できる人間の育成に励んでいます。

「多様性の受容」は青山学院の伝統です。

青山学院には、古くから多様性を受容する土壌がありました。さまざまなバックグラウンドを持った生徒が同じホームルームで学び、お互いを認め合っています。本校の国際交流プログラムは、隣人の価値観を認めながら、進んで人と社会に仕え、その生き方が世の光となる人、「サーバントリーダー」を育てることを目指しています。2026年からは新たに、夏期休暇中にアメリカを訪れ、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) の学生との対話を通してサーバントリーダーシップを学ぶ「アメリカ・UCLAプログラム」も始まりました。

短期交換留学プログラム (姉妹校交流)

英国ケンブリッジの名門パブリックスクールであるリーズ校、ルネサンスの文化を色濃く残すイタリア・ミラノ郊外にあるクレスピ校との間で姉妹校提携を結んでおり、それぞれ数名の生徒による約2週間の短期交換留学を実施しています。ホームステイや現地校の寮で生活しながら、授業や課外活動などのアクティビティに参加しています。

カナダ・ホームステイ

夏休みに2週間、約30名でトロント市近郊のベリー市を訪問します。地域の施設 (老人ホーム・YMCA等) の訪問、チャリティー活動、ナイアガラの滝見学、大リーグ観戦、カヌー体験など様々なイベントが用意され、異文化や大自然を体験できるだけでなく、英語力を試す格好の機会となっています。

長期海外留学

学外の各種留学斡旋機関の派遣などによって1年間の長期海外留学をする場合に、休学等の手続きを経て高等部に復帰することが可能です。帰国後に同じ学年集団に戻る第一種留学と、年下の学年集団に戻る第二種留学の二種類の制度があります。年間で平均して10~15名程度の生徒がこの制度を利用しています。

帰国生の受け入れ

本校は1970年代から、毎年一定数の帰国生を受け入れてきました。帰国生は通常のホームルームに在籍し、異文化の体験者として周囲に影響を与えてくれます。一方、帰国生が円滑に学校生活に順応できるよう、国際交流員の教員を中心に、学校生活や学習の問題の相談に個別に応じる体制を整えています。



長期留学生の受け入れ

毎年数名、海外からの長期留学生を引き受けています。英語圏出身だけでなく、さまざまな国や地域出身の留學生がいます。留學生はホームルームに所属してクラスメイトと共に授業に出席し、学校行事やクラブ活動にも参加します。長期留學生から各国の文化や価値観、政治経済、他国から見た日本について学ぶことも多く、留學生は国際理解の重要な役割を担っています。



平和・共生



WEB「平和・共生学習」ページ

「平和を願う人」から「平和を実現する人」へ。

過去を見つめ、現在を知り、未来を描く。

これが、本校の平和・共生教育の理念です。

「他者と共に生きる」のは決して易しいことではなく、

現実には複雑な問題が山のようにあります。その山積みの問題から

逃げ出さずに、新しい知識と出会い、人と出会い、試行錯誤することで、

ジグソーパズルを組み立てるように未来を創造する力を養います。

「会いに行く」から、はじめよう。

平和・共生教育を支える力は、生徒たちの自発性、探究心です。フィリピンや東ティモール、岩手県宮古市などの訪問プログラムに参加した生徒たちは、数々の出会いの中で、地域の課題や地元の人たちと話したことを「自分のこと」として悩み、考えるようになります。そして、考え抜いたアイデアを校内・校外で実行することで、さらに新しい学びや経験が生まれます。見栄えだけがよい支援活動ではなく、地道に、長期的に地元の人々と向き合ってきたからこそ見えてくる支援のかたちがあります。修学旅行でも同様に、長崎市の人々と出会い、インタビューや交流を通じて、平和やキリスト教などへの思いを受けとめることで生徒の心の中に未来への種火をともします。

修学旅行を軸にした平和学習

修学旅行は3泊4日で長崎から阿蘇までを中心に九州(北部)をまわります。特に長崎市では、「ドコ神父と潜伏キリシタンの歴史を伝える」「長崎から世界への平和メッセージ」「長崎の歴史からグローバル社会を考える」など主題を設け、観光地を見学するだけではなく、新聞社への取材や、さまざまな専門家へのインタビュー、長崎市内の高校生や大学生とのディスカッション等を含む探究学習を行います。

岩手県宮古市の高校との交流

東日本大震災の年から岩手県宮古市の高校との交流を続けています。現地を訪れ、被災地について、防災について直接肌で感じながら学ぶとともに、異なる地域・環境の高校生と一緒に考えながら交流を深めています。文化祭では宮古コラボデザイングッズや特産ワカメのチャリティー販売を行うなどの活動をしています。

青山学院フィリピン訪問プログラム

クリスマス礼拝での献金によってスポンサー(里親)支援をしている子どもたちに会いに行く訪問プログラムです。スポンサーチャイルドの家庭や学校、支援センターなどを訪問し、一緒に遊びながら、支援とはなにか、共に生きるとはどうすることなのか、といったテーマについて議論し、理解を深めます。青山学院初等部、中等部と合同で行っているプログラムです。(訪問先が変更になる可能性があります)

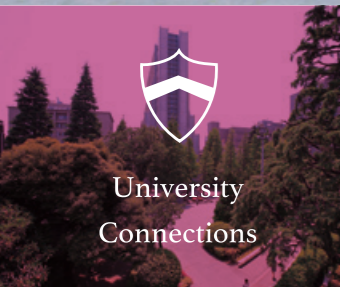
東ティモールスタディツアー(2026年度以降未定)

東ティモールのコーヒー生産農家を訪問するスタディツアーです。農村のフィールドワークを通じて教育、環境、医療などの地域の課題から、コーヒー産業とフェアトレードといったグローバルなテーマまでを広く研究します。この開発経済学の研究プロジェクトは、生徒自主学习団体BLUE PECOと協力して取り組んでおり、文化祭ではフェアトレードコーヒーのチャリティー販売等を行っています。



平和・共生LogBook

本校では、多くの授業の中で平和・共生に関するテーマを取り扱っています。理科では原子力や放射線について学び、現代社会では核兵器にまつわる国際的な議論、平和憲法のあり方などを学びます。また、聖書の授業ではキング牧師の生涯を、英語では映画「Invictus」などを通して、様々な文化的背景を持つ他者と共生する社会の在り方について、思考を深めていきます。これらの学びは3年間を通して行われ、生徒はさまざまな教科を横断した総合的な平和・共生学習の記録ノートである「LogBook」に学びの軌跡をまとめていきます。



高大連携



WEB「高大連携」ページ

未来を見据えた学びで、可能性を切り拓く。

高校時代に触れる大学の学問は、それぞれの専門分野の広さと奥深さを見せてくれます。同じ敷地内に大学のほとんどの学部があるという恵まれた環境を活かし、大学との連携を深め、一貫教育のさらなる良き実りを得ることをめざします。

大学授業の履修

3年生の希望者が放課後に青山キャンパスの大学の授業を履修して、内部進学した際にその単位が認められるという制度があります。大学生と一緒に授業を受けることは、「学問入門講座」とはまた違った意味で、知的探究心の向上につながると期待しています。



学問入門講座

青山学院大学・専門職大学院の教員が、それぞれの専門分野についてわかりやすくオンデマンド配信（一部対面式）で講義を行います。講座は例年30講座ほど用意され、生徒は自分の関心のある講座をいつでもどこでも視聴できます。大学での学問研究の面白さ、奥深さに触れることができます。

| 2026年度学問入門講座テーマ | | |
|-----------------|---------------------------------------|--|
| 学部学科 | 講義テーマ | |
| 文学部 | 英米文学科 | 「Reading an American Utopia, Wonderful Readings of OZ—オズの魔法使い」と文学/文化研究 |
| | フランス文学科 | モリエールの『守銭奴』について |
| | 日本文学科 | 現代日本文学を「読む」— 田辺聖子「ジョゼと虎と魚たち」を例として |
| | 史学科 | イギリス帝国史への入門 |
| | 比較芸術学科 | 映画研究入門 — 映画作家の「演出」を味わう |
| 教育人間科学部 | 教育学科 | 教育の過去・現在・未来 ～ICTに着目して～ |
| | 心理学科 | 発達と臨床の心理学 入門 |
| 経済学部 | 経済学科 | 経済における指数（インデックス）とは何か？ |
| | 経済学科 | 日本人はなぜ長寿なのか ～経済学からの学び～ |
| 法学部 | 法学科 | 「芸能人」をめぐる取引と競争 ～経済法による規制～ |
| | ヒューマンライツ学科 | 国際法におけるジェノサイド犯罪 |
| 経営学部 | 経営学科 | 企業経営における原価計算の役割 |
| | 経営学科 | 職場の「なぜ？」を科学する ～心理学・社会学から見る組織のしくみ～ |
| 理工学部 | 化学・生命科学科 | がんを診る・治す薬の開発研究:自分で分子を考えてみませんか？ |
| | 機械創造工学科 | 熱力学第二法則とエントロピー入門 |
| | 情報テクノロジー学科 | どうなる未来のコンピュータ？— 人とコンピュータの新たな関係 |
| 国際政治経済学部 | 国際政治学科 | リベラリズムは減んだのか — 国際関係学・国際政治経済学入門 |
| | 国際経済学科 | 政治経済学入門 経済と政治を一体的にどう理解するか？ |
| | 国際コミュニケーション学科 | International Communication (E) - High and Low Context Cultures and Communication Styles 国際コミュニケーション総論 (E) - 高と低コンテクスト文化とコミュニケーション・スタイル |
| 総合文化政策学部 | デジタル社会のクリエイティビティ | |
| | デザインが社会を変える | |
| 社会情報学部 | AIコンサルタントって何者？～AIが恋の相談にのる時代がやってきた～ | |
| | 裁定取引 — 必ず儲かる取引 | |
| | 経営学の視点から「価値」を考える | |
| 地球社会共生学部 | デジタル時代におけるビジネスと環境問題 ～地球規模での社会共生を考察する～ | |
| | 情報空間の解析入門 | |
| コミュニティ人間科学部 | “わたし”の不思議 | |
| | 企業の役割とは？ 企業と地域社会の接点 | |
| | はじめての損得計算 | |
| 会計プロフェッション研究科 | 国際ビジネス言語としての会計 ～あなたの可能性を拓く会計の世界～ | |
| キリスト教関連科目 | 日本にとってのキリスト教・キリスト教にとっての日本 | |



青山学院大学学部学科・大学院研究科 一覧

| 大学 | |
|--------------|---------------|
| 文学部 | 英米文学科 |
| | フランス文学科 |
| | 日本文学科 |
| | 史学科 |
| | 比較芸術学科 |
| 教育人間科学部 | 教育学科 |
| | 心理学科 |
| 経済学部 | 経済学科 |
| | 現代経済デザイン学科 |
| 法学部 | 法学科 |
| | ヒューマンライツ学科 |
| 経営学部 | 経営学科 |
| | マーケティング学科 |
| 国際政治経済学部 | 国際政治学科 |
| | 国際経済学科 |
| | 国際コミュニケーション学科 |
| 総合文化政策学部 | 総合文化政策学科 |
| 統計データサイエンス専攻 | (2027年開設予定) |
| 理工学部 | 物理科学科 |
| | 数理サイエンス学科 |
| | 化学・生命科学科 |
| | 電気電子工学科 |
| | 機械創造工学科 |
| | 経営システム工学科 |
| | 情報テクノロジー学科 |
| 社会情報学部 | 社会情報学科 |
| 地球社会共生学部 | 地球社会共生学科 |
| コミュニティ人間科学部 | コミュニティ人間科学科 |

| 大学院 | |
|-------------------------|------------|
| 文学研究科 | 国際政治経済学研究科 |
| 教育人間科学研究科 | 総合文化政策学研究科 |
| 経済学研究科 | 理工学研究科 |
| 法学研究科 | 社会情報学研究科 |
| 経営学研究科 | |
| 専門職大学院 | |
| 国際マネジメント研究科 | |
| 会計プロフェッション研究科(会計専門職大学院) | |

青山学院チャットルーム

希望者は昼休みや放課後に青山学院大学の留学生たちと彼らの母国語である英語・韓国語・中国語・フランス語・ドイツ語などで交流し、言語力の向上や異文化理解を体験できます。

大学協定校・認定校オリエンテーション、IELTS講座

内部進学者を対象に、大学協定校・認定校を利用した留学準備プログラムを行っています。留学に必要な英語資格試験の一つである「IELTS」の対策講座も、無料で5回実施しています。